

かしわば

第12号

2006.10



脳梗塞治療

24時間365日体制で専任スタッフが待機
急患を受け付けています

かしわばゼミナール

脳卒中発症後の気分の落ち込みは
『うつ病』の可能性もあります

お知らせ

平成18年10月1日から
健康保険法等が改正され
患者さんの負担額が変わります

食べて健康

サツマイモ

医局では、「症例検討会」を毎日行っています



脳梗塞治療

24時間365日体制で専任スタッフが待機
急患を受け付けています

『週刊朝日』で『脳卒中の「いい病院」』として
当院が紹介されました

脳卒中は、脳の血管障害の総称で、その中の8割を占めるのが脳梗塞です。脳の動脈が詰まり血液の流れが悪くなって、酸欠に陥った脳の細胞が死んでしまう病気で、近年、高齢者に著しい増加がみられます。当院では地域の病院・医院と連携し、脳梗塞の最先端治療「t P Aを用いた血栓溶解療法」を積極的に行っています。この脳梗塞の治療体制と実績が評価され、「週刊朝日・2006年9月8日号」で『脳卒中の「いい病院」』として当院が紹介されました。

自宅で

脳梗塞の症状が出たら……



- 片方の手足など半身の動きが急に悪くなる
- 突然ろれつが回らなくなる、言葉が出にくくなる
- 片方の目が見えにくくなる、視野が狭くなる
- 突然ふらつき、歩けなくなる
- 意識がなくなる

すぐに病院へ!

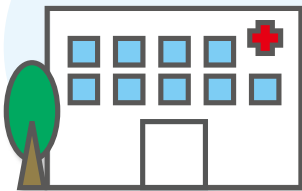
柏葉脳神経外科病院

治療体制の整った当院で治療・リハビリ

- 24時間365日の急患受け入れ体制
- 国道36号からの救急車専用通路の確保
- 急性期の薬物治療・手術
- 急性期・回復期のリハビリテーション
- 在宅治療を支える「かかりつけ医」との連携

地域の病・医院で

「脳梗塞の疑いあり」と診断されたら……



すぐに病院へ!



緊急時の連絡先
☎011-851-2333



私たちの考えていること

病院の理念

私たちは、安全で安心いただける医療のサービスに徹し、患者さんの幸せを守ります

病院の基本方針

- ・患者さんにとって、思いやりのある最善の医療に全力をつくします
- ・医師とスタッフによる説明と、患者さんの理解と選択に基づく医療を実践します
- ・患者さんの意志とプライバシーを尊重します
- ・医療従事者として、常に、豊かな人間性と技術の向上をめざします
- ・救命・救急医療から心と体のリハビリテーションまで、脳の総合病院をめざします
- ・地域医療機関との強力な連携をはかり、よりダイナミックな医療のサービスを提供します

患者さんの権利

- ・患者さんは、平等で、安全な医療を受ける権利があります
- ・自分の診療にかかわる人々の氏名と役割を知る権利があります
- ・自分の病気・治療・予後について知る権利があります
- ・治療について承諾・拒否する権利があります
- ・自分の診療について、他医師の意見（セカンドオピニオン）を得る権利があります
- ・自分のプライバシーを守る権利があります
- ・公的援助、地域サービスに関する情報を知る権利があります
- ・病院職員に対して、意見・苦情を伝える権利があります

tPAを用いた 血栓溶解療法の 治療体制を整えています

『tPA（組織性プラスミノゲン活性化因子）』は、2005年10月に保険適用になった新薬で、静脈に投与し、血管に詰まった血栓（血のかたまり）を溶かします。tPAによる『血栓溶解療法』を行うことで、社会復帰できる患者さんの割合は、従来の1・5倍の39%に増加するという臨床結果があります。

治療は 発症から3時間以内に

tPAの使用は、脳出血の危険性があることから、発症から3時間以内に制

tPA治療を行う 医療機関の条件 (日本脳卒中学会)

- CT・MRI検査が24時間可能
- 集中治療のため十分な人員を中心とするストロークチームおよびSCUまたはそれに準ずる設備があること
- 脳内出血などの不慮の事故に際し、脳神経外科的処置が迅速に行える体制
- 急性期脳梗塞（発症後24時間以内）治療の経験が十分（例えば年間50件以上）あること

当院は、これらの基準をすべて満たしており、ガイドラインに則って迅速な治療を行っています



国道36号直結の
救急車専用道路

当院におけるtPA治療実績 (2005年12月10日～2006年10月24日)

- ・治療件数 30件(死亡1件)
- ・男性 16人、女性 14人

tPA治療後の経過

(治療後1カ月以上の患者さん26人を対象)



限されています。脳梗塞の治療は時間との闘いです。当院では、救急隊や地域の病・医院と連携し、一刻でも早く治療を始められる体制を整えています。当院がtPAを用いた血栓溶解療法を開始したのは2005年12月10日。治療件数は10月24日現在で30件で、道内でもっとも多い治療実績があります。

当院におけるtPA治療の症例

2006年7月
50代・男性

午前3時に起床後、
右上下肢脱力と
言葉の出づらさを自覚

【当院到着】

救急車にて搬送。
午前3時40分、当院に到着。

【診察】

救急処置室にて診察。

- 血圧132/82、呼吸などに問題なし。
 - 神経学的検査では、構音障害・右顔面の不完全麻痺・右上肢の完全麻痺と右下肢の不完全麻痺を認める。
 - CTでは、まだ早期虚血による変化ははっきりと認められない(写真A)。
 - MRIで、左放線冠に脳梗塞の所見を認める。さらにMRAにて、左中大脳動脈の閉塞を認める(写真B)。
- 採血結果の異常がないことを確認し、担当医が、tPA治療を判断。



写真A:来院時のCT画像



写真B:tPA治療前のMRA画像



写真C:tPA治療後のMRA画像

【治療説明】

tPA治療が有効であることを説明。

- tPA治療は有効性が認められている反面、脳出血をおこす危険性も高いため、治療について、担当医がご本人やご家族の方に詳しく説明し、話し合いが行われた。

【tPA治療開始】

午前4時25分。当院到着より85分後に、tPAの投与を開始。

- 投与による副作用は出現せず。24時間後に投与終了。
- 投与終了時点で、神経学的には軽度の構音障害が残存するのみにまで改善。

- MRI上脳梗塞は認められたが、拡大はない。左中大脳動脈の再開通を認める(写真C)。

【その後】

翌日から、リハビリテーション、高気圧酸素療法を行う。

【退院】

入院後18日目に退院。神経学的には問題なく、独歩にて病院を後にする。

*現在のところ当院ではtPA治療による脳出血の副作用は、幸い1例も経験されておりません。

かしわば ゼミナール 第12回

脳卒中発症後の気分の落ち込みは『うつ病』の可能性もあります

適切な治療が必要です

脳卒中発症後にかかる『心の風邪』

当院では精神保健科で治療を行っています

脳卒中の治療を行い、症状が回復してきた患者さんの中に、なんだか気分が落ち込み、リハビリをする気が起こらなくなって、1日中ベッドでゴロゴロするようになる人もいます。一時的なことであれば心配はありませんが、長期化する場合は『うつ病』の可能性があります。

脳卒中発症後のうつ病の原因には次のようなものがあります。

- ① 脳卒中中、脳の中の「気分や感情にかかわる部分」がダメージを受ける
- ② 脳卒中の後遺症で、今まで当たり前できていたことができなくなることにより、いらだち、ストレスを感じる
- ③ 慣れない入院生活でストレスを感じる
- ④ 社会復帰や将来に関して強い不安を感じる

『うつ病』とは、精神疾患の一種で、不安や落ち込み、やる気の低下のほか、食欲低下・不眠といった症状が現れます。初期症状には、頭痛、めまい、しびれなどがありません。

『心の風邪』とも呼ばれ、誰もがかかる可能性があります。脳卒中の発症後には約20%の患者さんがうつ病にかかるといわれています。



うつ病によって、リハビリをする意欲が失われると、回復の遅れにつながります。早い段階での、医師による適切な治療が必要です。当院では、精神保健科でうつ病の治療を行っており、脳神経外科やリハビリテーション部門と連携を取りながら、患者さんのより早い回復と社会復帰を目指しています。

NEWS おしらせ

平成18年10月1日から健康保険法等が改正され患者さんの負担額が変わります

① 70歳以上の高齢者の窓口負担割合が変わります。

現役並みの所得を有する高齢者の窓口負担割合が2割から3割になります。

【現役並み所得者とは？】

- 課税所得が145万円以上(月収28万円以上)
 - 高齢者複数世帯で収入が520万円以上
 - 高齢者単身世帯で収入が383万円以上
- ② 1カ月当たりの自己負担限度額が変わります。

一部負担金については、所得に応じて、所定額を超えた額が申請により、保険者または市町村から払い戻されます。 ※詳しくは、ご加入の医療保険の保険者(老人保健はお住まいの市町村)まで、お問い合わせください。



消化できないβでんぷんが、便秘解消に効果を発揮します

高血圧や便秘に効果的

サツマイモに一部含まれるβでんぷんは消化されずに、食物繊維的な働きをするので、便通をよくします。ビタミンCやEのほか、血圧を下げる効果のあるカリウムも含まれています。

ゆっくり加熱で甘くなります

ゆっくり加熱すると甘みが増すので、調理は、電子レンジよりもオーブンや蒸し器で。冷蔵庫ではなく、新聞紙に包んで常温で保存してください。

秋も深まり肌寒い日が増え、太陽の日差しも優しく感じられるようになってきました。風邪が流行っているとの話も耳にしますが、体調を崩されている方はいませんか。秋といえば、「食欲」「読書」「スポーツ」と十

編集後記

人十色の楽しみ方があると思いますが、今のところ札幌の気温は例年に比べ温かく経過しているようですから、それぞれの秋をおおいに堪能して、来る冬に向けての体力を蓄えていただければと思います。

(小川)